2017.6.16 南海タイムス

島で生きる喜び　歌に込め

ベネズエラの音楽も　八丈浪漫音楽祭

ベネズエラ大使夫人で声楽家のコロンえりかさんを迎えて28日、「八丈島浪漫音楽祭２０１７～あしたに響け ゆめのうた～」が、町ホールに約４００人を集めて開かれた。

コンサートは、えりかさんの夫で駐日ベネズエラボリバル共和国大使のセイコウ・イシカワ氏のあいさつで開幕。一部は、女声アンサンブル「ならい」の合唱、碓井俊樹さんのピアノ演奏に続き、えりかさんが独唱した。二部は浅沼宏雄さん、石井秀さんが八丈太鼓や島の民謡を披露。モーリス・レイナさん（クアトロ）、牧野翔さん（マラカス）、吉澤陽子さん（ハープ）らの演奏とえりかさんの歌で、心地よく響くベネズエラの民族音楽も紹介された＝写真下。

トークタイムでは、えりかさんがベネズエラのお国事情や現地の音楽、そして貧困や生い立ちに左右されず、すべての子どもたちに楽器と教育を無償で与え、生きる力を育てようという同国の音楽教育手法の「エル・システマ」についてスライドを交えて説明した。

フィナーレは三原小保護者らの「歌おう会」、そして島外からの参加者も加わり、島で生きる喜びと浪漫を表現した「われは海の子」（上田真樹さん編曲）の大合唱

日本では東日本大震災の翌12年、エル・システマジャパン（代表・菊川穣さん）が設立され、現在、福島県相馬市、岩手県大槌町、そして、長野県駒ヶ根市などで活動が広がっている。登壇した菊川さんは「国や文化によって音楽教育の環境や方法は変わる。エル・システマも限定したスタイルはなく、まずは地域に音楽を楽しめる場をつくることが大切です」と、呼びかけた。

三部はこの音楽祭に向けて結成された八丈少年少女合唱団のデビューステージ。指揮者・加藤洋朗さんの指導で、詩や曲を深く理解し、全身で音楽を楽しもうという思いが、歌声や表情から伝わり、会場からは大きな拍手がわき起こった。